

MAP 1 毎度ありがとう お店拝見
前地通り商店街

小径に沿って、昔懐かしい店先風景を訪ねましょう。氷塊を切る音が聞こえ、和菓子、お惣菜、こだわりの食品を並べる店もあります。通りの中ほどには稲荷社があり、玉垣には賑わいを重ねた頃の商店名が刻まれています。

通りの後半にある元文3年(1738)銘の庚申塔は、邪鬼を踏みつける憤怒の青面金剛像。悪事を見ない、聞かない、言わない三猿像。月と日、鶏といった図像も彫られています。



▲前地通りの庚申塔

MAP 2 車窓から見る公孫樹もみごと
長久山 圓蔵寺

明治30年(1897)に千葉県から移転した日蓮宗の寺。日蓮上人が、身延山久遠寺で書いたとされる書簡の、第三紙にあたる断簡は市の指定文化財。秋に見事な彩りを見せる門前の公孫樹は、入念に手を入れた佳樹で、気根と呼ばれる円錐形の突起(乳)は古木の証です。



▲圓蔵寺

MAP 3 福ダルマ触れてご利益
神明社

神明台の縁にある小社。数百年前には、東方の湿地から見る灯りが、灯台の役目をしたとの伝承が残る土地に建っています。老杉の根元に祀られていた石祠を、昭和10年(1935)に改築。「福だるま」の石像は、昭和36年(1961)、氏子が街の人々の幸福を願い福ダルマを配ったことに由来します。



▶神明社の福だるま

MAP 4 中山道の残照
関元屋



▲関元屋

関元屋商店は材木商、萬商いとして中山道と共に時代を重ね、現在の建物は、大正5年(1916)頃の建築と伝えられています。近年は米穀を扱い、米蔵には大八車で機俵ものの米俵が運び込まれていましたが、現在は閉店しています。時代を偲ぶ建物や、屋号のある軒丸瓦等に往時の賑わいを見ることが出来ます。

店先の井戸は「お助け井戸」と呼ばれ、関東大震災や東京大空襲で逃げ延びた人々の喉を潤しました。

浦和区文化の小径マップ

まえじ きしちょう

前地・岸町 界隈 を歩く

約
4.6km

JR浦和駅を起点に、
懐かしい商店街を通り、起伏の多い住宅地から岸町界隈を散策します。

大宮台地の南端の景観と中山道の商家に、
古の浦和の残照を探访してみませんか。
常盤、高砂という新しい地名誕生前のくらしと、環境を発見するコースです。

初版発行日…平成21年(2009)3月

編集・発行…浦和区文化の小径づくり推進委員会



1



2



3

1 柵稲荷社

2 前地通り商店街

3 神明社の桜

MAP 5 学問の神の社は奉安殿
起志乃天神社

往時、北野天満宮を分社し祀ったと伝えられる神廟。地域では「起志乃天神社」と称され、五穀豊穡、無病息災、合格祈願を願う場として親しまれています。社殿は高砂小学校の元奉安殿です。境内には天満宮、猿田彦命、青面金剛の石祠もあります。



▲天神社

MAP 6 絵馬に願いを!
東向足立十二薬師11番
寅薬師

江戸時代初期に高野重兵衛が建立。目の病を治す仏として信仰され、多くの絵馬が掛っています。入口の石塔には「あさぼらけ とらのかしらに ゆめさめて るりのひかりをみるぞ うれしき」という御詠歌が刻まれ、足立十二薬師の11番札所でもあります。



▲寅薬師



column

MAP A 遊歩道は古の大水路
岸町緑道

昭和9年(1934)、11年間に及ぶ大事業であった浦和耕地整理が完了し、常盤、高砂の町名が誕生。常盤から白幡沼へ向かう岸町西大排水路が造られました。近年、良好な住宅地となり、水路は暗渠にして岸町緑道になりました。種々の芳樹がかわしい、四季の散策道です。



▶岸町緑道

MAP B 古の商店の屋号を探访
柵稲荷の玉垣

千木の伸びる緑青色の屋根と、三本の鯉魚木がのる見事な社。かつて大きな金庫があったことから通称「金庫稲荷」。玉垣には、浦和町をはじめ三室、谷田、与野、東京、神奈川、遠く大坂の商人や、日本画家「三尾呉石」の名も見る事が出来ます。

坂の多い街の風景

浦和区がある大宮台地の南部は、手のひらを広げたように高低差があり、台地の先には旧入間川が流れ、岸町の「岸」とは旧入間川の河岸に開けた街に由来します。「鹿島台」「東野台」「元宿台」と呼ばれる高台や、「木遣坂」、「神明坂」といった坂も多くみられます。坂を上った先には、四季の彩の世界が広がっています。



▶木遣坂